



若い群像

「日本人はカメラ好き」といわれるように、最近では一般家庭でもカメラの一台はあります。

そして日常の子供の姿などを写して楽しむ人、思い出に写す人などが多いのですが、そのほとんどがカラー写真です。

菅沢辰也さんは、留萌カラーに勤める写真技術屋さん。

菅沢さんがこの道に入ってからもう三年になるといいます。

カラー写真ができるまでの工程にはフィルムの現像、焼付けがあり、一番苦労するのは、カラーパランスの濃度番号を決める時だといふ。

「コマコマをネガが痛まないように慎重に作業を進めなければいけないので、すごく気をつかいます。」

そして、その一枚一枚にその撮影した人の思い出があるわけですからね。」といふ。

最近の写真は、そのほとんどがカラーなので、季節によって早朝から夜中まで焼いても追いつかないことがあるといふ。

「これから正月にかけてまた忙しくなるんですけど、でも美しい写真を楽しむに待っている人がいるわけですから頑張らなくちゃ」といって焼付操作に取組んでいる

広報

若い群像

'73 12月号
第189号